

2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 都市高速の経済学

- 5 **首都高の役割と料金**
早稲田大学 商学大学院 教授
杉山雅洋
- 6 **企業と消費者のコミュニケーション**
社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 常任理事
辰巳菊子
- 8 **首都高の“需要管理”は渋滞対策だけか?**
東京大学 大学院 准教授
清水哲夫
- 12 コラム 道 最相葉月
- 14 CHALLENGE
世界初のMMST工法の導入
- 15 データ物語
なぜ、交通事故の情報を発信するのか
- 16 **首都高HEADLINE**
- 18 business essay
明月に語りかけるな
東京経済大学 コミュニケーション学部 教授
関沢英彦
- 20 つくる人まもる人
首都高速道路株式会社
溝口健二
- 22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito
illustration by Keika Nakajima
contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited

首都高を描いた切手があるのをご存知だろうか？ 昭和39年の8月1日、1号線と4号線の開通にちなんで発売された記念切手である。当時、小学2年生だった僕はちょうど切手を集め始めた頃で、いまもストックブックのなかに大切に保存されている。今回はその切手に描かれた、日本橋の界隈を散策してみることにしよう。

切手の専門書によると、この絵柄は日本橋の南の橋詰にある缶詰でおなじみの

column | RAMPWAY

首都高名所案内②

切手に描かれた首都高・日本橋界隈

コラムニスト
泉 麻人

国分商店(K&K)ビルの4階からスケッチされたものだという。首都高を真ん中に、切手の右端に半分ほど入りこんでいる黒いビルが野村証券本社ビル、その左の窓まで表現された白いビルが三菱倉庫の建物らしい。いまも同じ場所に建つ国分ビルの前から江戸橋方向を眺めると、目の前にクラシックな野村証券ビルが健在だ。切手には細かく表現されていないが、上部の方は淡いクリーム色に配色されている。

さて、三菱倉庫の方をいうと、野村証券の横道を抜けた江戸橋の際に、頂きに望楼を戴せた趣きのある外観を見せていた。切手の絵柄では、角度的に野村証券ビルの陰に隠れて、印象的な望楼のある一角まで描けなかったのだろう。ちなみに切手の左端の方にも中層のビルが確認できるが、そちら側はずっと高い最近のビルに変貌している。

切手には、首都高の下を交差する日本橋も描かれている。謂れ書きを読むと、最初に橋が架けられたのは慶長8年と伝えられ、現存の立派な石橋が築かれたのは明治44年という。そうここには、日本の道路の起点を表わす、(日本国道路元標)の石碑も立っている。首都高を含めて、文字どおり、交通路の中心ポイントといっているだろうか。

日本橋川の岸を通って、両方の一石橋の所に行くと、橋際の木陰に面白い石柱

が保存されている。迷子しらせ石標——と刻まれたそれは、いわば江戸の時代の伝言板。(たづねる方)と刻まれた石柱の片側に、迷い子の特徴などを記した文書を寄せると、(忘らす方)と刻まれた片側に、心当たりのある者が情報を寄せ——という仕組み。同じものが湯島天神の境内にもあるけれど、つまり、迷子が頻繁に出るほど、古くからにぎわっていた場所ということだろう。

この一石橋の北方のブロックは、日本銀行、三井本館、三越本店、と、古建築御三家。ともいえる歴史的な建物が並ぶ界隈。とりわけ、緑青を帯びた屋根を載せた日本銀行のコンクリート建築は明治29年に完成した、屈指の古参物件。散策の当日、ちょうど紙幣をテーマにした企画展をやっていて、館内の一室に入ることができた。特殊なマイクロスコップでお札に印刷された、隠れナンバーを確認したり、レプリカ紙を束ねた1億円(1万円札1万枚)分の重さを体感したり、貴重な体験をした。

久しぶりに、三越本店の屋上にでも上ってみようか。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、84年、フリーのコラムニスト。近著に『東京ふつうの喫茶店』(平凡社)がある。

